

2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [金沢市立額小学校] 担当教諭名 [米町 俊充] (6年1組 40名)

相手国・地域 [オーストラリア]

海外学校名 [Lumen Christi Primary School] 担当教諭名 [Peta Ikeda]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	金沢から世界の発展を考える	34

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	相手を知ろう 分かり合おう ～笑顔でいっぱい笑顔のために～
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	相手の文化を知ることはとても大切。相手に興味を持つということ。相手を知りたいと思う気持ち。それが、互いを分かり合うことにつながっていく。私たちはテレビ会議を通して仲良くなりました。仲良くなるためにコミュニケーションは大切です。コミュニケーションをとり、お互いのことを知しましょう。そして、世界中のみんなが仲よくなり、平和な世界になりますように。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
直接のコミュニケーションは、心のつながりを生む。テレビ会議でオーストラリアの子どもの反応のよさを感じたことは効果的で、体を使って大きく表現し、心を開放して感情を伝えることが人とつながる上で重要だと子どもたちが実感できたことは、これから子どもたちが様々な人たちとのつながりを築いていくうえで、極めて有効だったと言える。	意欲や思いの持続を図るために、教師のコーディネート力は欠かせない。日々の学習活動に追われ、計画的に進めることができなかつたのは大きな反省点である。相手校の交流児童が、月ごとに変化していたこともあり、個と個のかかわりを深めることは不十分だった。十分に打ち合わせをし、子どもたちにも見通しを提示して、学習を進めていくとよかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
外国は遠い存在で、言語も異なるので、かかわりを深めるのは難しいと感じていたが、言葉を使わなくても様々な方法でかかわりを深めることができることを実感し、もっと多くのかかわりを築きたい、相手のことを知りたいという気持ちをもった。	物怖じせず自己表現を積極的に行うオーストラリアの児童を見て、世界の子どものコミュニケーション能力の高さを感じた。昔話やPPAPなど、日本の文化や流行が世界に広まっており、日本が世界と深いつながりがあることを実感できた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	<ul style="list-style-type: none"> 100人村ワークショップを実施し、世界の状況を知る (金沢星稜大協力) 自己紹介の準備 交流校への自己紹介 (スカイプでのTV会議) 	世界の状況についてよく理解できたようだった。交流国だけでなく、世界各国に対して関心を高めたようだった。自己紹介では、興味・関心・好きなことを絵で表したネームボードを作成し、好きなことなどを英語で自己紹介した。名前を呼び合うなど、大きく反応を返すことで、つながりを感じ取っていた。	総合8
共有 テーマ学習	10月	<ul style="list-style-type: none"> テーマについて相談 日本の文化について調べたり、文章やフリップにまとめたりする 互いの文化について伝え合う (スカイプでのTV会議) 	日常の中にみられる日本らしさ、日本のよさを伝えようと相談し、まとめた。英語を使い、テレビ会議で発表した。自分たちの英語がうまく伝わらず、英語をもっと勉強したいという意欲をもてた。	総合10
融合 メッセージ 壁画デザイン	11月	<ul style="list-style-type: none"> 構図やメッセージを相談し、相手国に提案、決定 交流国に送るクリスマスカードづくり お互いの文化についてのクイズ交流 	交流を通して、何を感じたかを共有し、壁画に込めるメッセージを相談した。構図案は全員が描いてその意図と共に紹介しあった。これまでの学びをもとにして様々な構図案を考えていた。反応がフォーラムで返ってくると、自分たちの案が認められて、うれしそうにしていた。	総合6
創造 壁画制作	12月	<ul style="list-style-type: none"> 構図の決定、下書き 彩色して完成させる クリスマスカード、贈り物(日本文化を感じ取れるもの)といっしょに送る 	描き方や気をつけることについて話し合い、役割分担をして、40人全員で描けるように工夫をした。積極的に制作活動に取り組んだ。また、日本から何を送ってあげたらいいか相談した。日本らしさを感じ取れるものにしようと積極的にアイデアを出していた。	総合8
評価 振り返り 自己評価	3月	<ul style="list-style-type: none"> 返ってきた絵の鑑賞 ふりかえり 	教室で箱を開けて絵をみせると、完成した絵を見て歓声があがった。共同制作ができたことに喜びを感じ、交流校とのつながりを実感したようだった。	総合2

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	オーストラリア側から日本の文化に質問された場面。日本のよい文化が外国でも認知されていることを感じ取れた。
異文化の理解	B	4	交流校から文化を紹介してもらったり贈り物が届いたりしたこと。知らない食べ物・日本とは違う流行を実感できた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	5	スカイプでの自国文化の紹介。英語がなかなかうまく伝わらず、もっと英語を勉強したいという意欲が高まった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	4	自らの生活の中の文化を調べた場面。様子がよりよく伝わる写真を選択するなど、相手意識を持って調べていた。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	A	5	スカイプでの自己紹介。お互いの名前を呼び合うことで、お互いが大切にされていることを感じ取ることができた。
協働する力 (役割分担・協力)	B	4	壁画の制作場面。40人全員が参加して絵を完成させようと役割分担したり着色の仕方をアドバイスできたりした。
学習を追究する意欲	B	4	自国文化について調べたことをまとめる場面。海外の相手に伝えるという相手意識が、高い意欲を生み出した。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	A	4	自己紹介カードづくりの場面。自分らしさを表現しようと参考作品や友達の作品を参考に、工夫してデザインできた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	B	3	届いた壁画の鑑賞場面。国語や図工での学習を生かして、具体的な箇所を挙げて、よさを評価していた。